

## 天理大学ふるさと海外研修報告書



## 世界最高峰リーグセリエA2

イタリアと日本のバレーボールの異なる点について

## 体育学部体育学科 2年生 花村知哉

### 目次

1. はじめに
2. 活動報告
3. 行動記録
4. アンケート結果
5. 研修での学び
6. 終わりに

#### 1. はじめに

この度はふるさと海外研修生に選出していただき誠にありがとうございます。海外でバレーボールをして自身の成長に繋げてみたいと思っていた時に、ふるさと会海外研修の話聞いてぜひ参加してみたいと考えておりました。今回の研修にあたって研修の準備・計画・にご尽力してくださった先生方並びに関係者の皆様に深く御礼申し上げます。

今回僕は、2026年2月5日から3月5日までの期間、イタリアのシエナ・トスカーナを拠点とする、エンマ・ビッラス・シエナというチームで約1ヶ月間練習に参加しました。このチームに行かせていただけるようになった経緯につきましては、中央大学が行なっている選手を育成するために毎年イタリアのチームに派遣するというプロジェクトの代表の方を高校の監督から教えてもらい、推薦していただいたチームがエンマ・ビッラス・シエナでした。

本研修では、この留学経験を通してイタリアの文化などを実際に拝見して感じたことや、バレーボールについてのアンケート調査などを行いました。また、本報告では日本とイタリアのバレーボールにおける練習方法や試合を見学して感じた違いなどをお伝えしたいと考えています。

## 2. 活動報告

○渡航先 イタリア トスカーナ サンタクロッチェ

○活動期間 2026年2月5日～2026年3月5日

○研修目的 練習参加や試合観戦などから学んだことへの理解を深める。

○研修地 エンマ・ビッラス・シエナ (セリエ A2 プロバレーボールクラブ)

日付	活動内容
2月4日	日本出国
2月5日	チームに合流、初練習参加
2月6日	午後2時間練習
2月7日	午前練習終了後、午後セリエ B 試合観戦
2月8日	セリエ A2 試合観戦
2月9日	ピサへ観光
2月10日	午後軽いボール練習後ウエイトトレーニング

2月11日	午後2時間半練習
2月12日	午前ウエイトトレーニングし、午後2時間練習
2月13日	午後2時間練習
2月14日	日曜の試合する地域へ前のりするための移動日
2月15日	セリエ A2 試合観戦 (アウェイ)
2月16日	一日オフ、自宅待機
2月17日	午後軽くボール練習後ウエイトトレーニング
2月18日	午後2時間半練習
2月19日	午前ウエイトトレーニングし、午後2時間練習
2月20日	午後2時間半練習
2月21日	午前ウエイトトレーニング、午後セリエ B 試合観戦
2月22日	フィレンツェ観光
2月23日	午前ウエイトトレーニングし、午後2時間練習
2月24日	午後2時間半練習

2月25日	1日オフ、自宅待機
2月26日	午前ウエイトトレーニングし、午後2時間練習
2月27日	午後2時間半練習
2月28日	午前1時間半練習
3月1日	セリエ A2 試合観戦
3月2日	午後ウエイトトレーニング
3月3日	午後1時間半練習、アンケート収集
3月4日	セリエ A2 試合観戦
3月5日	イタリア出国

### 3. 行動記録

2月4日 (1日目)

今回は ANA とエア・ドロミティを利用して渡欧しました。伊丹空港から羽田空港へ行き、羽田空港からフランクフルト経由でフィレンツェ空港へ向かいました。乗り

継ぎ時間も含めておよそ 23 時間でした。下の写真は実際に僕が食べた ANA の機内食です。非常に美味しくて飲み物もたくさんの種類があり、アメニティも充実していたため羽田からフランクフルトは 10 時間以上のフライトでしたがとても快適なフライトでした。イタリアやヨーロッパ行く際、少し費用は上がりますが ANA を利用してみたいかがでしょうか。



2月5日（2日目）

フィレンツェ空港到着後は、初日だけついでくださる通訳の高田さんとチームの GM であるファービオさんがお向かいに来てくださり、車で 30 分ほど走らせ滞在するアパートへ連れて行ってくださいました。そこで荷物などを置いて、チームが提携しているレストランで昼食を取りました。ここはチームとレストランが提携しているため昼食と夜ご飯は自分でお金を出さなくても食べることができ、毎日メニューも変わるし何よりとても美味しかったのですごく満足しました。

昼食を食べ終えてから家で 2 時間ほど休憩しファービオさんと高田さんと共に練習す

る体育館へ向かいました。チーム関係者の方やチームメイトと挨拶をし、初めての練習に参加しました。この日は長時間フライトで体が固まっていたのと、時差ボケや緊張で普段のプレーができませんでした。しかし、同級生のチームメイトである日本のことが好きなアレという選手が、明日から一緒に頑張ろうねと日本語で声をかけてくれたのでとても嬉しかったのと同時に、お金をもらってプレーしているプロのチームに練習参加するということは、僕がへまや情けないプレーばかりしていると練習の質が下がり迷惑をかけてしまうので、毎日本気でプレーしないといけないと感じました



2月7日（4日目）

この日は午前には2時間練習し、17時から始まるセリエBの試合を観戦しました。イタリアのバレーボールリーグには4つのカテゴリーがあります。トップのセリエA、その1つ下のセリエA2、その下のセリエA3、最後にセリエBがあります。シエナは年齢ごとに分けられたチームがあり、トップの選手がA2のチームにおり、約18~22

歳の若手選手がセリエ B に在籍するというチーム編成になっています。

セリエ B の選手は高校卒業後すぐプロの世界に入りバレーボールが生活をする上で唯一の稼ぐ方法になります。セリエ B に在籍していますが、セリエ A2 ともらう年俸は大きく異なるそうです。セリエ A2 とセリエ B を行き来する選手がいたりする中、彼らは一刻も早くトップチームに上がるために、チームの勝利とそれに貢献しアピールしなければなりません。そのため、1点1点必死に取りにいったし点を取れば心の底から喜んでいました。試合はフルセットの末勝利し、試合後はお祭り騒ぎのように喜んでいました。生活をかけたバレーボールをこの早い段階でやっているからこそ、なぜイタリアがバレーボール TOP クラスの国なのかわかったし、そういう点において日本は遅れているしそのような環境がないのは異なる点だなというふうに試合を観戦して感じました。

2月8日（5日目）

今日はトップチームのセリエ A2 の試合を観戦しました。昨日の試合よりも緊張感や始まる前のやってやるぞという雰囲気がひしひしと伝わってきて、これがプロとアマチュアの違いなのかと試合が始まる前から感じました。試合は相手のサーブやクイック攻撃に押されてしまい3-0で敗北しました。試合終わりのロッカールームはとてつ

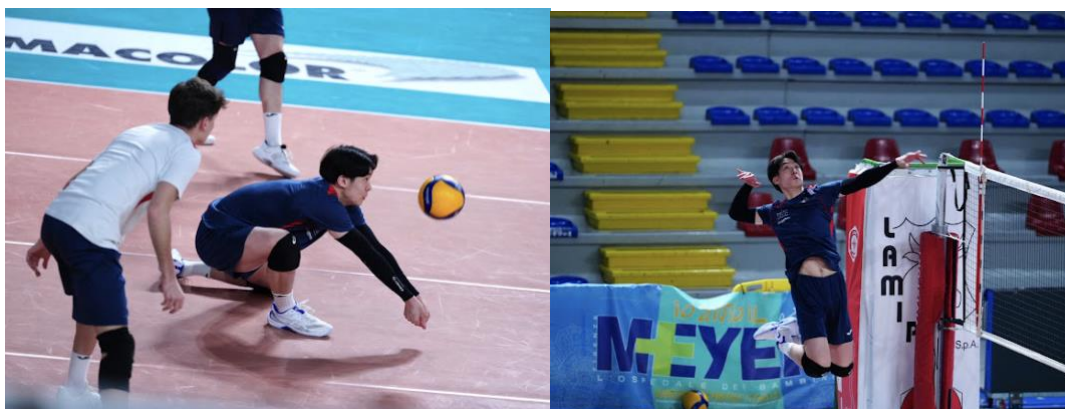
もなく暗い雰囲気になっており、逆に言えば相当落ち込むくらい本気で試合に臨んでいた証拠だと思いました。



2月10日（7日目）

今日は午前中にトレーニングをして、15時30分から前回の試合の振り返りをするためにミーティングを行いました。言っている内容はわかりませんでした。チームのレギュラーの選手がセッターに多く指摘しているところが見られ、セッターとスパイカーの会話のラリーが多くみられました。そのミーティングでは、チーム全員発言していたし年齢関係なくときには熱くなる時もありましたが、本音でミーティングしているのがわかり、そう言った本音の会話というのはとても重要だと思ったので僕たちも積極的に行っていきたいなと思いました。その後、いつも通りアップ・パス・対人パスを終えてサーブレシーブとスパイクを同時に練習し、A対Bの複合練習を行いました。まずBチームがサーブを打ってそれをAチームが決めると、Aチームにチ

チャンスボールが入り、それを決めると A チームに今度はハイボールのトスをあげ、決めるまでが 1 セットでそれを A チームと B チームで交互にローテーション事に行いました。この練習をやってみた感想は、まず攻めてくるサーブが速すぎて返すのに必死になっていたしハイボールも 2m 級のブロックが 3 枚くるのでなかなか決め切ることが最初はできなかったので、サーブレシーブでは最悪コート内に残すやハイボールも全てキメにいくんじゃなくてリバウンドをとってからブロックアウトを取ったり考え方を变えることで、プレーの質も上がっていったのでとてもいい練習になったなと思いました。



2月12日(9日目)

今日は午前トレーニングを1時間やりお昼を食べて16時からボール練習を行い、チームメイト10人といつもと違うレストランへ向かいました。そこではチームメイトと

英語やときにはスマホの翻訳機を使いながらたくさんのお話をし、とても楽しい時間を過ごすことができました。チームのキャプテンは「トモ！君はこの家族の一員だよ！」と言ってくれて最後に集合写真を撮ってくれました。この会食からチームメイトととても仲良くなり、このチームに来て良かったなと思いました。



2月15日（12日目）

今日はアウェイで、敵チームの体育館で試合を行いました。体育館自体とても狭くアウェイということもあり、敵チームのファンが多く会場に押しかけていました。この試合ではシエナがサーブを打つときにミスを誘うためにラッパのような電子音を爆音で流したり、シエナが長いラリーの末点を取るとブーイングしたりとファンによって妨害行為のようなものが試合中によく見かけられました。しかしそれは海外の試合ではよく見かける行為であり、日本でそのような行為をするとファンとはいえスポーツマンシップに反すると言われかねませんが、チームに勝って欲しいという熱い気持ち

ちからなる行為だと思うのでそう言ったことは日本と海外の考え方の違いだと思うし、どちらかを否定するつもりはありませんが、その点日本は選手のことをリスペクトするファンが多いのかなと感じました。試合は3-1で勝利し、みんなとても喜んでいました、1勝の大切さや喜びというのをこの目で見てすごく感じることができました。



2月23日(20日目)

今日もいつも通りアップ・パス・対人・サーブレシーブをやった後に、スパイク練習をして複合練習を行いました。今日はとても調子が良くて、いつもよりブロックが見えておりストレートやクロススパイクが冴えており、あまり打てなかったインナースパイクも打てて攻撃面においてとても調子が良かったです。またディフェンス面においても、サーブレシーブは、ジャンプサーブもフローターサーブも綺麗にかえるケースが多く、監督にもチームメイトにも褒められて最高の1日になりました。練習参

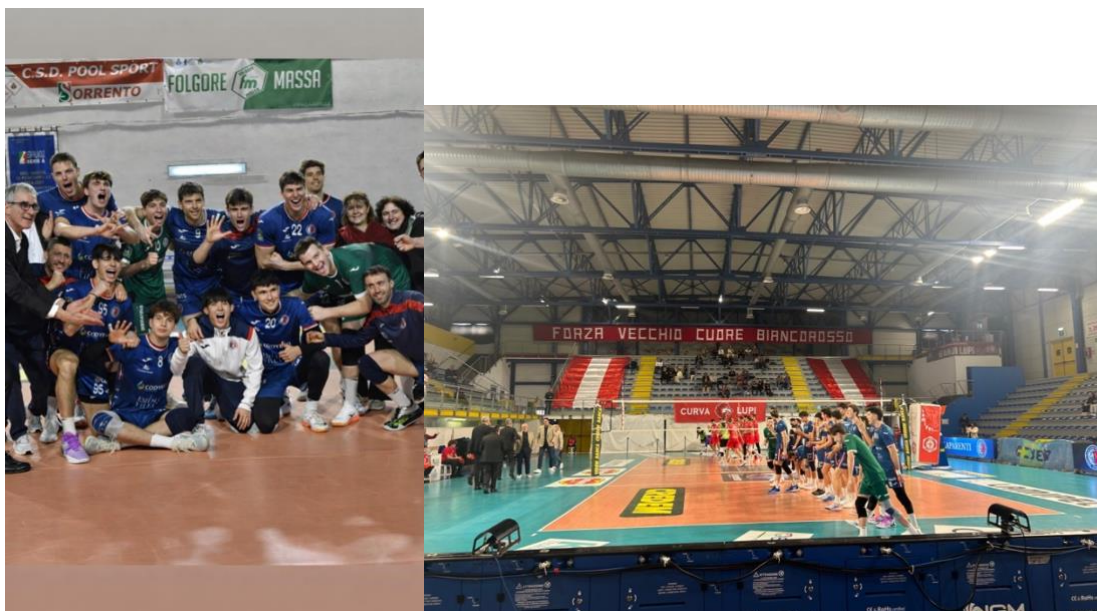
加当初よりも、ブロックの見え方やサーブに対して慣れてきたり自分の中での基準が上がってきている証拠だと思うので、いい方向に進んでいっているなど実感しました。



3月4日（29日目）

今日はチームに帯同する最後の日で、トップチームの試合を観戦しました。シエナは現在14チーム中10位とプレーオフ進出は8位以内に入らなければならないため、相手は順位が近くプレーオフ進出のためにとっても重要な一戦でした。試合は一進一退の攻防が続き1セット目は取れたものの、2、3セット目は終盤で逆転され4セット目は序盤でリードされそのままセットを取られ、敗北しました。大事な一戦だっただけに、試合終わりはみんなすごく落ち込んでいました。しかし一人一人に挨拶をすると、トモの幸運を祈ってるよ、トモに会えてよかったよと言葉をかけてくれてすごく

嬉しかったしこの仲間と出会えてことは僕の人生においての最高の宝物だなと感じました。



3月5日（30日目）

朝の8時にフィレンツェ空港からミュンヘン空港経由で日本時間8時半に関西国際空港につきました。帰りの飛行機も12時間越えのフライトでしたがご飯も美味しくとても快適に過ごすことができました。

#### 4. アンケート結果

○バレーボールについて アンケート調査

対象：7名（レギュラーメンバー）

実践方法：Instagram のダイレクトメッセージにて

※本結果は、個人が特定されない形で集計・編集しています。

① バレーボール歴

- ・ 8年2名、10年2名、11年1名、18年1名、22年1名

② 日本のバレーボール選手で好きな人は誰ですか？

- ・ 西田選手3名、山内選手1名、関田選手1名、山本選手1名、トモヤ1名

③ バレーボールのどんなところが好きですか？

- ・ 一見シンプルに見えるが、その中に隠された複雑さや共通目標に向かうときに生まれる一体感
- ・ アタックが気持ちよく決まる場所
- ・ プレーするたびに生まれる楽しさ
- ・ スポーツ自体がダイナミックで、たくさんの得点を決める方法があるところ

- ・クリーンなスポーツで、身体接触が少なくドーピングの観点からも厳しいところ

- ・チームプレーが好き

- ・レシーブをあげて会場が盛り上がったとき

④ あなたのプレースタイルを一言で表すと？

- ・アグレッシブ

- ・パワフル

- ・攻撃的

- ・カチャーラ（トスカーナの言葉で力強い、強い意志という意味）

- ・力強さ

- ・挑戦的

- ・リラックス

⑤ バレーボールをしていて一番感謝している人は誰ですか？

- ・特定の1人ではなく、シエナのスタッフのみんな

- ・チステルナ・バレーのコーチ

- ・バレーボールをして、出会った全ての人たち

- ・ユース時代のコーチ

- ・両親・3名

⑥ バレーボールを引退したら何をする予定ですか？

- ・自分の自動車教習所を作りたい

- ・言語仲介者（通訳）や語学教師になりたい

- ・マーケティングの仕事をしてみたい

- ・バレー関係に進むか、全く別の道に行くか迷い中

- ・指導者になりたい

- ・まだ何も決めていない、2名

⑦あなたの人生においてバレーボールはどのようなものですか

- ・バレーボールは仕事であり、健康的なライフスタイルそのもの

- ・仕事のようなもの

- ・人生でいちばんの情熱

・仕事のようなものだが、何よりも気分転換でありいちばんの楽しみ

・最初は仲間と体を動かすだけの楽しみだったが、今では仕事になっている。しかし、ここまでするために家族や親しい友人に多くの犠牲を払ってきたためバレーボールは自分にとっての全て

・バレーボールを通して親友に出会えたり、住む場所で恋人に出会ったり僕の人生の大きな一部

○アンケート結果を受けて

今回のアンケートから感じたことは、回答は一人一人違うけれど、ある共通点があるように感じました。それは、人のために頑張れるという点についてです。あなたにとってバレーボールとはどのようなものかという問いに、仕事と回答する人が多くみられましたが、仕事は必ず一人ではできないし人のために頑張れる人たちだからこそバレーボールを仕事にできているのだと思います。そういった人たちだからこそ、引退した後も人のためになる仕事を進んで考えているのではないかと感じました。そういった気持ちは、世界の壁を越え日本でも同じなんじゃないかなと感じました。

## 5.研修での学び

今回の研修で、世界最高峰リーグであるセリエ A2 のチームに 1 ヶ月練習参加を行い、たくさんのことを学べたことは僕のバレーボール人生においてとても素晴らしい経験だったなと思いました。今回ここで学んだ練習方法だったり選手のバレーボールに対するモチベーションだったりチーム全体に共有して、天理大学バレーボール部の更なる成長に繋げていけたらいいなと思いました。この経験を活かしてさらに自分自身も成長の糧にして、プロバレーボール選手になれるように頑張っていきたいです。

## 6.終わりに

本報告書を最後までお読みいただき、誠にありがとうございます。

僕は今回のふるさと海外研修制度を使って、貴重な経験をさせていただきました。本研修を使って多くの人に素晴らしい経験をしていただけるよう、また多くの人に知ってもらい天理大学の海外研修制度が更に発展していけるよう、心から願っております。

最後になりますが、本研修に携わってくださった全ての皆様に心より御礼申し上げます。